

第25回米子市水道事業審議会 資料

- ・平成29年度の決算について

平成30年11月22日(木)

～ 決算の概要 ～

1 業務の状況について

わずかながら、給水量が増加しました。

業務の実績の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	増 減	増減率 (%)	摘要
給水人口 (人)	185,884	185,035	184,289	△ 746	△ 0.4	米子市、境港市、日吉津村
給水戸数 (戸)	75,013	75,635	75,596	△ 39	△ 0.1	〃
年間配水量 (m ³)	23,142,831	23,161,807	23,134,971	△ 26,836	△ 0.1	
年間給水量 (m ³)	20,915,146	21,069,336	21,097,835	28,499	0.1	
有収率 (%)	90	91.0	91.2	0.2	0.2	

* 有収率は、年間配水量のうち、料金の基礎となった水量の割合。(類似団体の割合は90.7%)

2 経営状況（収益的収支）について

収益的収支 … 1年間の営業活動によって生じる収入及び支出です。

(消費税及び地方消費税抜き)
(千円)

①収益的収入

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	増 減	増減率 (%)	摘要
給水収益	2,866,976	2,889,598	2,900,298	10,700	0.4	水道料金収入
その他	540,567	529,651	566,935	37,284	7.0	長期前受金戻入、受託工事収益など
総収益	3,407,543	3,419,249	3,467,233	47,984	1.4	

②収益的支出

(千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	増 減	増減率 (%)	摘要
営業費用	2,512,012	2,543,002	2,665,187	122,185	4.8	
営業外費用	206,041	187,673	193,241	5,568	3.0	主に支払利息等
特別損失	63,743	922	213	△ 709	△ 76.9	
総費用	2,781,796	2,731,597	2,858,641	127,044	4.7	

当年度純利益（①－②）

(千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	増 減	増減率 (%)	摘要
純利益(損失)	625,747	687,652	608,592	△ 79,060	△ 11.5	

3 資本的収入及び支出

資本的収支 … 長期間、水道事業に役立つ施設の整備や更新などの収入及び支出です。

(消費税及び地方消費税抜き)

③資本的収入（翌年度にあてる繰越工事資金等は除く。）

(千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	増 減	増減率 (%)	摘要
企業債	1,373,773	2,213,428	283,800	△ 1,929,628	△ 87.2	老朽管更新事業 国道431号線水管橋更新事業ほか
固定資産売却代金	1,069	9	0	△ 9	△ 100.0	
工事負担金	158,766	139,071	182,123	43,052	31.0	
他会計出資金	43,504	31,005	25,211	△ 5,794	△ 18.7	
補助金	1,575	53,409	18,196	△ 35,213	△ 65.9	庁舎建設事業に伴うもの 紫外線照射設備建設に伴うもの
計	1,578,687	2,452,321	509,330	△ 1,942,991	△ 79.2	

④資本的支出

(千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	増 減	増減率 (%)	摘要
建設改良費	1,898,229	2,775,237	1,539,115	△ 1,236,122	△ 44.5	老朽管更新事業 国道431号線水管橋更新事業ほか
企業債償還金	701,274	640,479	580,016	△ 60,463	△ 9.4	
計	2,599,503	3,415,716	2,119,131	△ 1,296,585	△ 38.0	

資本的収支不足額（④－③）

(千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	増 減	増減率 (%)	摘要
資本的収支不足額	1,256,567	1,005,794	1,609,801	604,007	60.1	

4 補てん財源

補てん … 建設投資の執行などによる不足額を、収益的収支の減価償却費などで埋める。

(千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	増 減	増減率 (%)	摘要
損益勘定留保資金	806,839	730,709	823,582	92,873	12.7	減価償却費など
繰越利益剰余金	172,801	259,258	100,547	△ 158,711	△ 61.2	議決処分
繰越工事資金	41,176	15,827	685,672	669,845	4,232.3	前年度に前受収入とした資金
計	1,020,816	1,005,794	1,609,801	604,007	60.1	

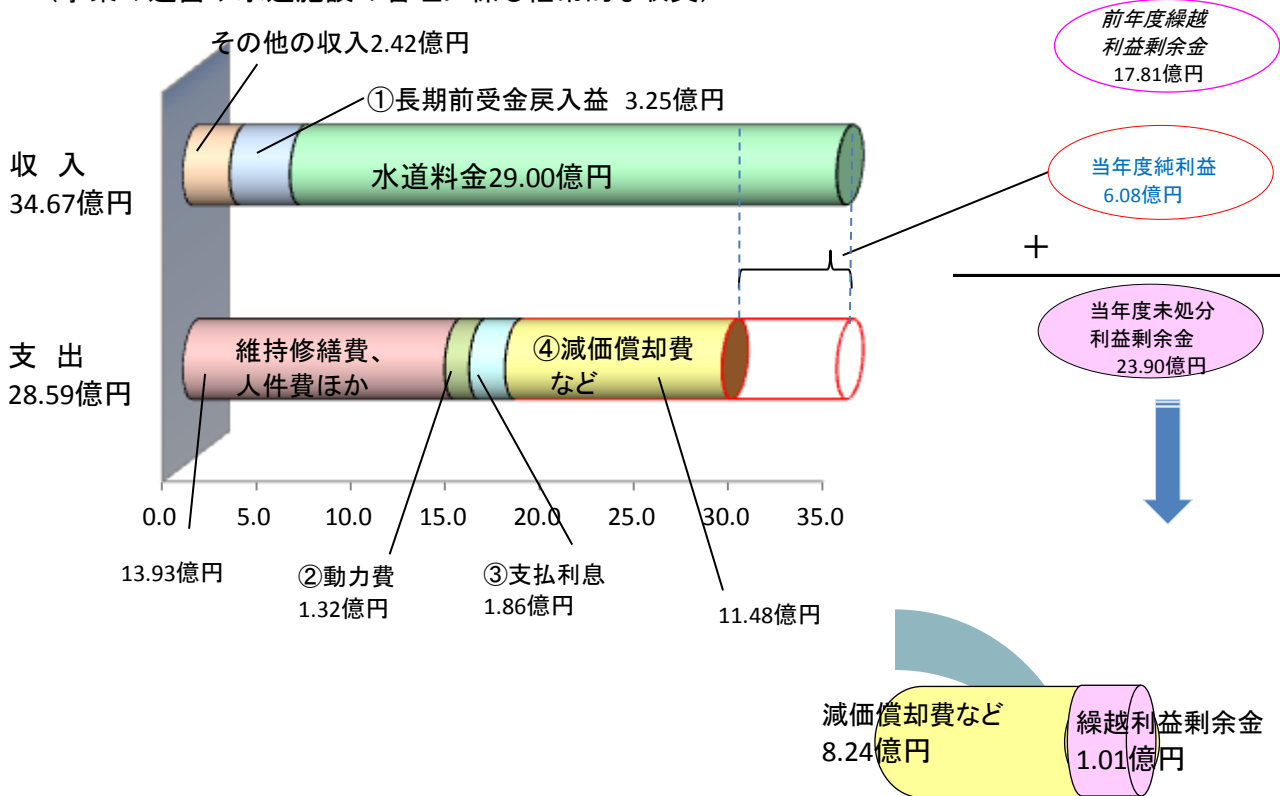
5 議決後の利益剰余金の現在高

(千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	増 減	増減率 (%)	摘要
減債積立金	150,400	184,800	215,300	30,500	16.5	利益の20分の1を積み立てる。 将来の企業債元金の償還にあてる
建設改良積立金	0	0	0	0	－	
その他積立金	29,495	29,495	29,495	0	0.0	水源涵養林取得積立金
繰越利益剰余金	1,387,247	1,781,240	2,258,785	477,545	26.8	今後の建設投資に使用
計	1,567,142	1,995,535	2,503,580	508,045	25.5	

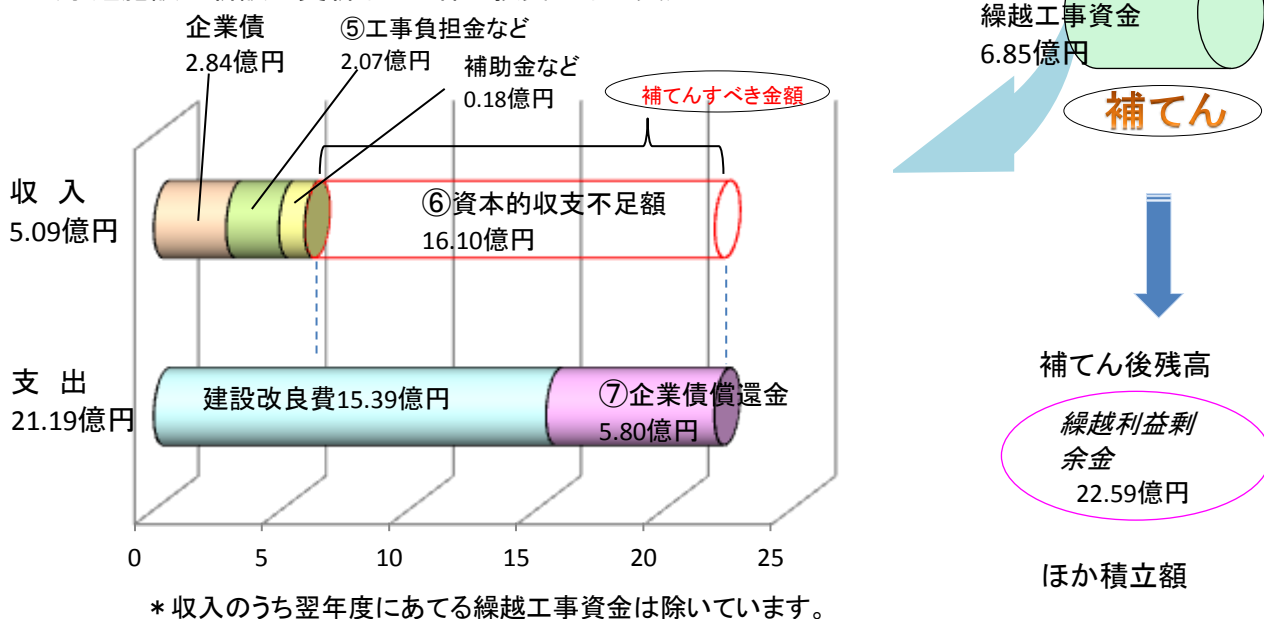
★収益的収支の決算(税抜)

(事業の運営や水道施設の管理に係る経常的な収支)



★資本的収支の決算(税抜)

(水道施設の新設や更新などに係る投資的な収支)



* 収入のうち翌年度にあてる繰越工事資金は除いています。

- ①長期前受金戻入益 …国庫補助金等で取得した資産について、減価償却に合わせて、順収益化する額。
- ②動力費 …水道水をお届けするために必要な電気料金。
- ③支払利息 …企業債(借入金)の利息。
- ④減価償却費 …施設の新設や更新に使ったお金を一度に費用とはせず、毎年、費用化するものです。実際の現金の支出はありません。
- ⑤工事負担金 …下水道や土木工事などに伴い発生する他会計が負担すべきお金です。
- ⑥資本的収支不足額 …減価償却費や繰越利益剰余金などの内部留保資金で補てんします。
- ⑦企業債償還金 …企業債(借入金)の元金の返済です。

建設改良事業の概要

継続して行っている事業

事業名	事業内容	工事費(千円)
1 配水管改良事業ほか	鋳鉄管、ポリエチレン管φ 50～ φ 150mm 8,438m	539, 976
2 老朽管更新事業	鋳鉄管、ポリエチレン管 φ 50～φ 150m 2,088m	109, 207
3 国道 431 号線水管橋更新事業	境港市 御崎灘橋	115, 698

単年度で完了した事業

事業名	事業内容	工事費(千円)
4 紫外線照射水処理施設設置事業	米子市福市	56, 557

平成28年度予算を繰越して完了した事業

事業名	事業内容	工事費(千円)
5 中央送水ポンプ場建設事業	ポンプ場建設工事、監視装置 改造工事等	147, 080 (ほか支払済額495, 880)
6 庁舎建設事業	建築主体工事、機械設備工 事、電気設備工事等	679, 653 (ほか支払済額655, 450)

～ 経営比較分析 ～

(総務省が公表を求める経営指標による)

◇経営の健全性

年度(平成)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
項 目						
①経常収支比率 (%)	本 市	118.1	120.3	125.4	125.1	121.3
	類似団体	107.8	113.1	112.7	115.3	－
②累積欠損金比率 (%)	本 市	－	－	－	－	－
	類似団体	0.56	0.56	－	－	－
③流動比率 (%)	本 市	462.8	197.3	242.0	337.7	368.9
	類似団体	649.2	272.4	266.0	262.8	－
④企業債残高対給水収益比率 (%)	本 市	341.8	362.3	388.1	462.3	450.3
	類似団体	297.1	302.0	298.1	291.8	－

(※類似団体の数値は、給水人口15万人以上30万人未満で、地下水、伏流水等を主な水源とする類似団体の全国平均値)

①経常収支比率 = 経常収益 / 経常費用 × 100

収益性を見る際の最も代表的な数値である。前年度と比べ3.8ポイント低下したが、100%以上であり、単年度収支は黒字を維持し、類似団体平均を上回って推移している。

②累積欠損金比率 = 累積欠損金 / 事業の規模 × 100

累積欠損金は生じていない。

③流動比率 = 流動資産 / 流動負債 × 100

本年度は、類似団体平均を上回った。300%を超えており、短期債務に対する支払い能力は確保できている。

概ね健全な経営を維持している。

④企業債残高対給水収益比率 = 企業債残高 / 給水収益

給水収益に対する企業債残高の割合を示しています。前年度を12ポイント下回ったものの、類似団体平均より高い値を示している。今後は、計画的に借入残高の抑制を実施する。

◇経営の効率性

年度(平成)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
項 目						
⑤料金回収率 (%)	本 市	112.2	116.3	122.2	122.3	118.6
	類似団体	98.5	105.7	105.7	108.4	－
⑥給水原価 (円)	本 市	122.5	117.9	112.1	112.2	115.9
	類似団体	147.9	137.8	138.0	136.2	－
⑦供給単価 (円)	本 市	137.4	137.1	137.1	137.2	137.5
	類似団体	145.6	145.7	145.9	147.5	－
⑧施設利用率 (%)	本 市	76.9	75.3	84.9	85.2	85.1
	類似団体	63.7	63.0	65.3	64.2	－
⑨有収率 (%)	本 市	92.0	91.8	90.4	91.0	91.2
	類似団体	90.7	90.4	90.1	90.7	－

(※類似団体の数値は、給水人口15万人以上30万人未満で、地下水、伏流水等を主な水源とする類似団体の全国平均値)

$$\text{⑤料金回収率} = \text{供給単価} \div \text{給水原価} \times 100$$

100%を超える水準で推移しており、健全性を維持している。現状、給水原価は給水収益で賄えているが、今後、収益の減少に留意しなければならない。

$$\text{⑥給水原価} = (\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料及び不用品売却原価} + \text{附帯事業費}) - \text{長期前受金戻入}) \div \text{年間総有収水量}$$

類似団体平均より低い水準である。

これは、常に良質な水源を確保できてきたことにも起因している。

$$\text{⑦供給原価} = \text{給水収益} \div \text{年間総有収水量}$$

1 m³当たりの水の販売価格です。

概ね効率的といえるが、更に有収率などの向上に努めなければなりません。

$$\text{⑧施設利用率} = \text{一日平均配水量} \div \text{一日配水能力} \times 100$$

類似団体平均と比較して効率的な運用ができている。

遊休資産の精査などを実施し、更に効率的運用に努める。

$$\text{⑨有収率} = \text{年間総有収水量} \div \text{年間総配水量}$$

前年度を0.2ポイント上回り、類似団体平均も上回っている。今後も、漏水調査等実施し、更に効率的な運用に心がける。

◇老朽化の現状

年度(平成)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
項 目						
⑩有形固定資産減価償却率 (%)	本 市	36.4	42.4	45.7	44.3	43.4
	類似団体	41.0	45.7	46.6	48.0	－
⑪管路経年化率 (%)	本 市	7.0	6.8	12.8	11.0	11.9
	類似団体	12.2	13.6	14.3	16.2	－
⑫管路更新率 (%)	本 市	0.67	0.72	0.76	0.77	0.71
	類似団体	0.80	0.72	0.67	0.67	－

(※類似団体の数値は、給水人口15万人以上30万人未満で、地下水、伏流水等を主な水源とする類似団体の全国平均値)

⑩有形固定資産減価償却率 = 有形固定資産減価償却累計額 / 有形固定資産のうち償却資産の帳簿原価 × 100

減価償却の進み具合を表します。前年度を1.1ポイント下回ったが、これは、大型施設が完成したことによる。類似団体同様に、保有している施設全体の老朽化が進んでいる。

⑪管路経年化率 = 法定耐用年数を経過した導送配水管延長 / 導送配水管延長 × 100

類似団体平均より低い水準であるが、法定耐用年数を超えた管路が全体の1割を超えている。

⑫管路更新率 = 当該年度に更新した導送配水管延長 / 導送配水管延長 × 100

類似団体同様に、低い水準である。財政状況を踏まえた適正な計画のもと更新を実施していく。

施設、管路ともに老朽化の傾向にあります。中長期的な視野に立って、優先度を踏まえた更新が必要となっています。

